

令和7年第9回  
富山県教育委員会会議録

I 開会及び閉会の日時

令和7年8月19日（火）

開会午後2時30分、閉会午後3時00分

II 場所

県民会館302号室

III 出席委員

1番 大西 ゆかり

3番 坪池 宏

4番 黒田 卓

5番 牧田 和樹

教育長 廣島 伸一

IV 説明出席者

理事・教育次長

小杉 健

教育次長・教育みらい室長

中崎 健志

教育次長

板倉 由美子

教育企画課長

森安 祐成

教育みらい室小中学校課長

木下 貴子

教育参事・教育みらい室県立高校課長

土肥 恵一

教育参事・教育みらい室特別支援教育課長

魚津 直美

教育みらい室県立高校改革推進課長

丸田 祐一

生涯学習・文化財課長

前川 秋人

教職員課長

安川 賢一

保健体育課長

五島 直樹

教育企画課課長（ICT教育推進担当）

五十嵐 佳美

教育みらい室課長（児童生徒支援担当）

岡本 一善

教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）

岩田 理恵子

生涯学習・文化財課課長（青少年・家庭成人教育担当）

河原 千里

保健体育課課長（食育安全担当）

松嶋 保子

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後2時30分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和7年7月29日開催の令和7年第8回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

廣島教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 議決事項

議案第21号 富山県教育職員免許状に関する規則一部改正の件

教職員課長から説明し、原案のとおり可決した。

### 3 報告事項

(1) 令和7年度全国学力・学習状況調査について

教育みらい室小中学校課長から説明した。

(2) 「夜間中学」に関するアンケート調査結果について

教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）から説明した。

### 4 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

### 5 議事

#### ○報告事項(1)(2)関係

〔牧田委員〕

- ・ 1つ目に全国学力・学習状況調査について、10 ページに今後の対応があり、これを分析して学力向上、授業改善の推進に取り組むというように書いてあるが、結局現状というかファクトを正確に把握しないと分析はできないと思う。ではこれだけの情報で本当に分析ができるのか。それから、例えば全国平均と比べてどうだという話になっているが、全国のデータというのは本当に正規分布しているのか。正規分布していなかったら平均と比べても全く意味がない。中央値がどこにあるかによって、どのような位置づけかも違ってくるので、そのあたりを踏まえてどのように対応していくのか。この調査は毎年実施しているので、昨年度の結果も分析して何らかの方向性が出ていると思うが、それについては我々もこの場では聞いていない。例として、昨年度の調査結果を踏まえてどのような対策を打ったのかを教えてください。要するに、ファクトをつかめているかどうか、そのファクトをつかんでちゃんと分析したのかということをお願い。
- ・ 2つ目に夜間中学について、夜間中学に行く対象の人はいいと思うが、対象ではない人がなぜこのアンケートに答えているのか、またどういう方々が答えているのか。その方々の属性は、この夜間中学を設置する上でのこれもまさにファクトだが、データとして優位性があるのかどうかという判断は、どのようにしているのかを伺いたい。

〔教育みらい室小中学校課長〕

- ・ 学力調査のファクトの分析について、設問ごとの正答や誤答、無回答がどのような割合であるかを各学校ごとに分かるようなソフトを作成して、ダウンロードできるようにしている。それに基づいて、誤答についてはどうして間違えたのかが分かる国から出されている資料をもとにした分析の仕方について、県から9月に行う学力向上講演会で示している。各学校はその講演会を通してソフトの使い方や誤答の分析の仕方を知り、その後各校の弱みを改善していくために授業改善に取り組んでいることと思っている。また、県としても誤答、無回答の割合が高いものは問題をピックアップし、なぜ間違えたのかという分析とそれに対する指導のポイントを示したものを各学校に配布している。

〔牧田委員〕

- ・ 今お話いただいたように、このようにすればこういう間違いはなくなるということは分かっているが、ではその学校の強みや弱みとかいうのは、他の学校や都道府県などと比べないと分からない。それがまさにファクトだと思っているので、要するに個別の問題が解けた解けないことを分析して、こうしたら解けるようになるというのは別に統計の世界ではない。何らかの尺度を持って比較し、自分の立ち位置を知ることが大事であり、ちゃんと計れるもので計るというのが全国でやる意義だろうと思っているので、そこはきちんと考えてほしい。それから何でもそうだが、PDCAというサイクルがあるが、今おっしゃったのはP段階での解決策しか出していない。こういうふうにしたらいいですよ、と出すということはそれを必ず完遂してもらえんという前提で言っているのだろうが、何もしなかつ

たら結局生かされないことになる。それはやはり確実にPがあってDがあってCまで行ってさらにどうするか、そして次のAがあるだろうと思うが、そんなサイクルは全然回っていない。せっかくのデータが生かされていないし、そうであればデータのファクトというのは本当にファクトなのかが分からない。だからそのあたりは考えていただきたいと思うし、これは義務教育の範囲なので当然、各市町村の教育委員会との連携も図っていかないといけない。

- ・また今の本筋とはずれる話だが、私は教育委員になってからいろんなデータを欲しいとお願いしたところ、欲しいデータは一つも出てこなかったという経験をした。出てこない理由は、各学校で管理しているからとか、市町村の範囲だからということである。しかし本来、教育行政というのはいろいろとチェックしたりするのに、ファクトがなければ何もできない。富山県教育の象徴みたいな例だが、県立高校入試の試験点数と内申点のウェイトを公表していないと思うが、なぜ公表できないのか、しないのか。入試問題も、他県や東京都などは堂々と公表していてホームページに解答例まで掲載しているが、本県はやっていない。これから教育改革を進めようとするなら、やはりそのファクトをどれだけたくさん開示するかということが実は近道になっていくと思っているので、そのあたりの体制や考え方も、少し考えていく段階にきているのではないかと思う。

[教育長]

- ・最初の部分については県独自の判断なのか、文科省がどう扱っているのかがあるが、やはりこれは何のためにやっているのかということに最終的には帰着すると思う。目的は何かをしっかりと考えることと、そういうデータがあるときに、県としてどういうことができるのかを改めて考えてみるということかと思う。昨年度こうでしたからこうですというこれまでのやり方だけではなく、時代も変わっていくというのはおっしゃるとおりだ。

[教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）]

- ・夜間中学について、1つ目に、対象者でない人はどういう人なのかということは、明記されているところはないのであくまでも推測であり私どもの受け止めとして捉えていただければと思う。12ページの質問1にあたるかと思うが、対象者の方が38人、対象者の関係者（家族、知り合いなど）が80人とある。この80人の内訳としては、11ページの6にアンケート用紙等配布先があるが、国際交流団体で利用者の面倒を見ておられる方で、この人は夜間中学に行くといいのではと思っておられる方、あるいは自立支援相談窓口や不登校・ひきこもり支援団体の方で、実際に利用されている方の顔を思い浮かべておられる方、実際に今お子さんと向き合っておられる保護者の方で、子どもをぜひ行かせたいが本人の気持ち次第なのでという回答が大変多かった。無回答の3人だが、これも自由記述のところを見ると、おそらく教員やスタッフとしてご協力いただくことに関心がある方ではないかと捉えている。
- ・2つ目に関して、優位性をどう判断するのか、どこまで当事者の意見と捉えていいのかということについては、今回のアンケートは回答へのハードルを下げるために、個人情報に関しては任意ということにしてあるが、記載のあった方も一定数いらっしゃった。その方も含めて、対象者である方、実際に入学できる方に絞ったときに、委員会資料には記載していないが同じように集計している。いろいろな質問の中身に関しては、対象者のみの抽出と本公開になるデータを比較しても、同様の傾向が確認できているので、信用に足るデータであると判断している。

午後3時00分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。